

明治以降は真宗大谷派高山別院光曜山照蓮寺と公称している。

照蓮寺は八回に及ぶ火災と再建の歴史をもち、焼失の度に飛騨門徒の浄財と労力を結集して再建がなされてきた。近年も明治八年(類焼)、昭和二十二年(類焼)、昭和三十年(放火)と三度焼失している。

明治八年の類焼後には木造檜皮葺、二十間(三十六メートル)四面の本堂と、壮麗な彫刻を施した山門等が再建されたが、昭和二十二年の火災によりすべて灰燼に帰した。

昭和三十年再建途上にあつた本堂が放火により全焼したのは、二度と焼失の悲劇を繰り返すことなきよう、昭和三十八年耐火建築で現在の本堂が再建された。

また、山門、鐘楼については昭和四十九年に再建が成就し、現在に至っている。

■主な法宝物

- 親鸞聖人筆『唯信鈔』断簡(鎌倉期) 一幅 籠文字九字名号(室町期)
- 蓮如上人筆『御文』草稿(室町期) 一幅 弥陀三尊来迎図(室町期)
- 蓮如上人筆『正信偈』(室町期) 一幅 一休禅師和歌(室町期)
- 蓮如上人筆六字名号(室町期) 二幅 松尾芭蕉書簡(江戸期)
- 光明本尊(南北朝期) 一幅 加賀千代尼俳句(江戸期)
- 伝狩野山楽画『親鸞聖人絵伝』 四幅 伝狩野山楽画猿猿屏風(江戸期) 片雙 二首 一通 一幅 一幅

岐阜県高山市鉄砲町六

真宗大谷派高山別院照蓮寺

高山観光には高山別院駐車場を!

【高山市内で最大規模の駐車スペース】
大型バス最大60台、乗用車最大150台駐車可能!

【市内散策に便利】

古い町並、宮川朝市などの
主要観光ポイントまでは徒歩10分圏内!

【リーズナブル】

お得な4時間定額料金で、市内散策に丁度いい!
(8時間迄割引料金もあり)

高山別院・料金表

料金	バス	自家用車	バイク(2輪)	キャンピングカー
4時間まで	3,000円	800円	500円	1,300円
8時間まで	4,000円	1,000円	800円	1,800円
1泊(別料金) (17:00~9:00)	3,000円	1,500円	利用不可	利用不可
1時間以内 (バスのみ)	2,000円	設定なし	設定なし	設定なし



高山別院照蓮寺 TEL.0577-32-0688

【営業時間 / 6時00分~18時00分まで】

※駐車場の事前予約は承っておりません。

ホームページ <https://hidagobo.jp>



真宗大谷派高山別院照蓮寺

飛騨御坊

真宗大谷派高山別院「光曜山照蓮寺」の歴史

当寺光曜山照蓮寺は、京都の東本願寺を本山と仰ぐ真宗大谷派の高山別院である。その起源は遠く鎌倉時代に遡り、開基は親鸞聖人の弟子嘉念坊善俊である。

善俊は、後鳥羽上皇の孫とも皇子ともい、伊豆の三島で関東より上洛途中の親鸞聖人の門弟となったと伝えられる。当初、善俊は白川郷鳩ヶ谷（大野郡白川村）に、その後、同郷飯島に専修念仏の道場を構え正蓮寺と称した。

次第相承して室町時代、第九世明教の代になり白川郷に真宗門徒が増えると、脅威を抱いた在地の土豪内ヶ島氏の焼討ちに堂は焼失し一時断絶した。その遺子十世明心は

本願寺八世蓮如上人・九世実如上人に帰依し、永正一年（一五〇四）白川郷中野（大野郡莊川村）に九間四面の本堂を再建し、光曜山照蓮寺と改称した。

天正十三年（一五八五）、金森長近は豊臣秀吉の命を受けて飛騨に侵攻した。

長近は照蓮寺との協調政策をとり、同十六年（一五八八）、十三世明了（等安）を請じて高山の現在地に寺地を与え、堂宇を建立した。以後、照蓮寺は藩主金森家から養子を迎えたり、東本願寺十三世宣如上人の三女の入奥もあるなど、触頭寺院として末寺七十カ寺余を擁する大寺であった。

十七世紀末、金森氏が出羽移封され飛騨は天領となったが、寺領は従前のとおり安堵された。しかし、まもなく照蓮寺と末寺に軋轢が生じ、元禄十六年（一七〇三）、十七世一乗は東本願寺に献上し、以来本山の掛所「高山御坊」となった。また飛騨人からは「仲間の御坊」と親しまれ崇敬されてきた。

年間行事・定例法座

修正会	1月1日 0時 1月2日 13時 1月3日 13時
嘉念坊善俊上人顕彰会	3月3日 13時
春季彼岸会・永代経法要	3月中旬 13時（週間）
蓮如忌	3月28日 13時
佐奈姫忌	6月26日 13時30分 （※会場は松本公民館、松本墓所）
暁天講座	8月1日～5日 6時30分
秋季彼岸会・永代経法要	9月中旬 13時（週間）
報恩講	11月1日～3日
お煤払い	12月21日 13時
除夜の鐘	12月31日 23時45分

※会場について記載のないものは、全て高山別院。

寺宝館

◆開館時間 9時～15時

◆入館料 無料

寺宝館では、飛騨の地における親鸞聖人の「念仏の教え」が広まった変遷を知ることができます。また、中村久子展も併設しており、幼い頃に両手両足を失った中村久子さんの生涯を通じて、人生の深い意味を問う展示となっております。



教えにふれる 言葉にであう

- ① ひだご坊（隔月で発行される機関紙です）
- ② 口法話（毎週、短い法話を掲載しています）
- ③ ごぼうチャンネル（お子さま向けのテレビ番組をYouTubeでご覧いただけます）

ホームページをご覧ください。



出版物

本堂内や境内には、毎月たくさんの方々が貼り出されます。経典や先達のお言葉だけでなく、時には自作の法語も掲示されます。御坊という空間全体で「教えにふれる 言葉にであう」場をつくっています。



① 『正信偈同朋唱和集—現代語訳付—』 正信偈や和讃などに現代語訳が付された勤行集です。 400円（税込）。

② 『私を照らすひかりの言葉—酒井義一著—』 著者の出あったさまざまな言葉たちから人生の問いをたずねる冊。 800円（税込）。

③ 『女と男のナムアマミダブツ—藤場芳子著—』 仏教の視点から身近なジェンダーの問題を考えていく冊。 800円（税込）。

④ 『ミニ法話集—響—』 わかりやすい一口法話を9話収録。気軽に教えに触れられる冊子。 200円（税込）。

